



大阪YWCA

<http://osaka.ywca.or.jp>

6
2023

YWCA(Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

岸田政権は昨年末、「敵基地攻撃能力」の保有を記した安全保障3文書の改定を閣議決定した。戦後、歴代政権が一貫して堅持してきた専守防衛を空洞化させる安全保障政策の大転換で、この国は「戦争できる国」から「戦争する国」になった。政府・自民党の狙いは自衛隊と米軍の一体化であり、憲法9条を骨抜きにして米国の戦争に参加することだ。

さらに、2023年度から5年間の防衛費を総額43兆円に増額するという。2027年度にGDP比2%に増額されれば、ロシアやインドなどを抜いて米中に次ぐ世界第3位の軍事大国になる。しかも、その財源の不足分を増税で補おうとしているのだ。

なぜ、GDP比2%なのか。ロシアに侵攻されたウクライナを支援するNATO諸国と違ひ、さしたる危機に瀕しているわけではない。防衛ジャーナリストの半田滋さんは「安倍政権下での米国兵器の爆買いのツケだ」と指摘する。そのローンが自衛隊の人物費や活動費を圧迫しているためで、安倍政権の失政私たちに尻拭いさせようとしているのだ。

この3月、石垣島で自衛隊配

新たな「戦前」を迎えないために のろし 反戦の「狼煙」を上げよう

矢野 宏



備が完了した。住民は標的になる不安を募らせているが、防衛省は敵基地攻撃能力が安保3文書に明記されたことで、射程1000キロの長距離ミサイルを配備しようとしている。

台湾から110キロの与那国島では昨年末、ミサイル部隊の配備が発表された。自衛隊誘致を進めた町議から「駐屯地には賛成したが、ミサイル配備なんて聞いていない」との声が上がっている。

「うずみ火」とは灰に埋めた炭火のこと。その炭火は消えることなく、翌朝、新たな火種となる。私の恩師であるジャーナリストの黒田清さんは生前、リストの黒田清さんは生前、「一つひとつ家庭にある幸せを大事にしよう。そのためには幸せを根こそぎ奪ってしまう戦争に反対しなければならない」と訴えた。その遺志を受け継ぎ、消すことなく次の世代に戦争のない世の中を手渡したいと願い、うずみ火と名づけた月刊新聞を発行している。

創刊から18年。この国が新たな「戦前」を迎えるようとする中で、無力感にさいなまれることもある。だが、そんな時、黒田さんの言葉を思い浮かべる。「戦争の対極にある人権社会に近づけることが戦争を遠ざける道だ」

やの ひろし
「新聞うずみ火」代表、フリージャーナリスト
2018年4月～2022年3月までMB
Sラジオ「ニコースなラヂオ」パーソナリティ。
2002年4月～2015年3月まで関西大学非常勤講師（マスコミ文章講座担当）。
新聞うずみ火を2005年10月に創刊し、今年で18年目。
2014年に「第20回平和・協同ジャーナリスト基金賞」大賞を受賞。
2021年に「第3回むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」大賞を受賞。
空襲体験者の「記憶」を「記録」に残す活動にも力を注いでおり、2010年から2022年の間に証言DVD「大阪大空襲」、「大阪空襲訴訟」「堺大空襲」「語り継ぐ大阪大空襲①②」を作成。

主な著書としては、「大阪大空襲訴訟を知っていますか」「空襲被害はなぜ国のが責任か」（せせらぎ出版）、「大阪空襲訴訟は何を残したのか」（共著、せせらぎ出版）、「関西電力と原発」（共著、西日本出版）などがある。

新聞うずみ火
石垣島に陸上自駆屯地開設

2020年4月号 No.210

島全体が「標的」懸念

小いいかもしけないが、その心にともつた火種をあわせ、反撃の「狼煙」を上げたい。

新聞うずみ火
石垣島に陸上自駆屯地開設

2020年4月号 No.210

島全体が「標的」懸念

小いいかもしけないが、その心にともつた火種をあわせ、反撃の「狼煙」を上げたい。

新聞うずみ火
石垣島に陸上自駆屯地開設

2020年4月号 No.210

島全体が「標的」懸念

小いいかもしけないが、その心にともつた火種をあわせ、反撃の「狼煙」を上げたい。



2019年12月、隣に住む義妹が「大変! 中村先生が殺された」とかけこんでいました。その時びっくりすると同時に、大地が緑になつた景色を見られていてよかったです」と思わず思つたことでした。

日本では、考えられない程の窮屈にあえぐ人々の為に診療所開設、井戸掘り、用水路開設、モスク等の建設に尽力されたことは広く知られているところであります。「1000の診療所より1本の用水路を」という考え方のもと、全くなされ、用水路建設へとその生涯をささげられたのでした。

その先生の生き方、何が先生をそうさせたのか、何が先生を支えたのか、それを知りたくてペシャワール会に問い合わせたところ、先生の著書『天、共にあり』を勧めただきました。そ

めたいと思います。

亡くなられたあとに観た映画『荒野に灯をともす』ではお嬢様が弾かれたという、先生がお好きだったモーツアルトが流れています。

(会員 渡辺 成子)

4月15日(土) 中村哲さんに学ぶ



先日、大阪YWCA千里で、故中村哲医師の活動を記録したDVD『アフガニスタン千ばつの大地に用水路を拓く』を見る機会がありました。

2019年12月、隣に住

む義妹が「大変! 中村先生が殺された」とかけこんでいました。その時びっくりすると同時に、大地が緑になつた景色を見られていてよかったです」と思わず思つたことでした。

日本では、考えられない程の窮屈にあえぐ人々の為に診療所開設、井戸掘り、用水路開設、モスク等の建設に尽力されたことは広く知られています。

日本では、考えられない程の窮屈にあえぐ人々の為に診療所開設、井戸掘り、用水路開設、モスク等の建設に尽力されたことは広く知られています。



統一地方選挙投票日の翌日（4/10）夜19時～21時、オンラインで実施されたイベントを視聴した。オーブニング、第1・2・3部、エンディングの構成。タイトルの「棄権する女性」は市川房枝さんの言葉。オープニングは上野千鶴子さんの挨拶「日本で女性の政治参画が低いのは、被選挙権を女性が行使していないから。選挙での投票先がなまざき心地がしなかつた」と、またある時は「洪水による渦流を前に、咄嗟の判断で自ら掘削機に乗り、河の中に入り渦流の向きを変え、村落を守る事ができた」とあります。次々と起こる困難にどれほどの御苦労があつたことか、測り知ることが出来ません。本の最後は以下の言葉で締めくられています。「天、共にあり」本書を貫くこの縦糸は、我々を支える不動の事実であります。

手は全て女性、職業はジャーナリスト、ライター、大学教員、前衆議院議員、現職区長など発信力のある方たち。民放の選挙報道は、視聴率のために、視聴者が興味を持ちそうな話題性を求めた報道になりがちである」と、女性候補についても人物

#gsc tal=0
<https://wan.or.jp/article/show/10469>

（会員 津戸 真弓）



女性参政権77周年記念 棄権スルナ女性

「私たちには明日を変える力がある」オンラインイベントを視聴して（ウイメンズ・アクション・ネットワーク、パリティキャンペーン実行委員会 共催）

わたしのイチオシ! モームの短編



モームの短編と出会ったのは高校の英語の授業。雑誌の連載だったので短くて読みやすく、シニカルなオチが面白くて授業より先に読んでしまったものでした。描かれているのは人間の習性や本性といった普遍的なテーマ。30年以上経った今でも時折読み返したくなる一冊です。

（会員 朝岡 千晶）

聖書の言葉
「愛をもつて互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、靈による致を保つよう努めなさい」
（ラヨンの信徒への手紙）

未来へ—安心を創る

FUJII 藤木工務店

大阪本店 〒541-0051 大阪市中央区備後町1-7-10
ニッセイ備後町ビル1階 TEL06-4964-8700

オフィスの移転・改装 / ショップの新装改装
株式会社
オフィスインテリア
国土交通大臣許可(特-30)第24021号
建築士事務所(は)第6554号
大阪オフィス 〒534-0024 大阪市都島区東野田町4-1-10
TEL: 06 (6351) 8830(代)
FAX: 06 (6351) 8840
<https://office-interior.net>

東京オフィス 〒135-0023 東京都江東区平野3-4-1
藤和シティコーポ木場公園101号
TEL: 03 (5875) 8315
FAX: 03 (5875) 8316

